



フリエアで
研修風景を
チェック!



フリエアで
研修風景を
チェック!
このマークを見つけたら
スマホでチェックしよう!
フリエア®

動画閲覧期間は
1か月です。
5/25(金)
6/24(日)

研修担当責任者・団長の
坂井伸さん。熱意ある指導で
学生を導きます。



Let's GO!!

▲8月までの長い期間、レクリエーションやゲームを通じて本番へ備えます。

▲子どもたちを引率するだけでなく、バックアップを行うのも大切な役割。



巻頭特集

「出きる、出きる、必ず出きる」

第11回 寺子屋つばさ

100km 徒歩の旅

4泊5日で100kmを歩く体験を通じて子どもたちの「生きる力」を養うことを目的とした『寺子屋つばさ100km徒歩の旅』。燕三条青年会議所の創立10周年をきっかけにして始まり、現在では実行委員会を立ち上げ運営を行っています。今回は寺子屋つばさ100km徒歩の旅実行委員会会長の嘉瀬一洋さんにお話を伺いました。



参加する子どもたちだけではなく、親や学生スタッフ、実行委員会の大人たちにとってもさまざまな「気づき」があり、自分自身の成長を感じることができると「寺子屋つばさ100」の嘉瀬さんは「あと10年は続けたい」と話します。

「第1回、2回、3回の参加者だった小学生が今大学生になって、スタッフ

旅を通して育む
大切な、生きる力。

「や水かけの練習も行います。当日は気温の急激な上昇や悪天候も想定されるため「子どもの命を守る」という取り組みは決して大きすぎではありません。それだけにレクチャーを受け持つ実行委員会も本気で学生たちに向かい合い、5月から8月本番までの毎週日曜日に厳しい研修を行います。

「研修には社会人として必要な要素が全部入っているんです。子どもとの相手をするのは学生ではなかなかないじゃないですか。子どもにいかにか言うことをきかせられるか、どうやれば振り向いてもらえるか、コミュニケーション能力の向上にもなるんです」

リーダーやサブリーダーがきびきびと動く姿に、憧れを抱く子どもも多いそう。学生スタッフにとっても子どもたちの成長を手助けできることがモチベーションになっているようです。

「お知らせ」
小学生参加者募集は残念ながら終了しましたが、来年度の募集は2019年4月半ば頃を予定しています。告知については各学校に配布されるチラシまたは下記HPをご覧ください。

「炎天下や雨が降ったりする中で、歩き続けることは人生と一緒なんです。それを子どもたちに伝えたいんです」

実行委員会の「出きる、出きる、必ず出きる」という綱領や「積極的な姿勢、謙虚な心、整理整頓、時間管理、全員参加、一日一生」といった心構え、社会へ出た後にも通じる大切な理念。過酷な旅を通して子どもたちの持つ力を引き出してあげられるだけでなく、まわりを取り巻く大人にとっても意義があるといえます。

裏方の仕事は思った以上に多く、今年は学生スタッフだけではなく一般スタッフの募集を行うそう。子供たちに学校では教わることでできない価値のある時間を与えてあげられる。寺子屋つばさ100で、子どもたちの成長を間近に感じてみませんか？

Information
第11回 寺子屋つばさ100km徒歩の旅
学生スタッフ
一般スタッフ
募集中!

「地域の子どもは地域で育てる」を、100kmの道のりを通じて実践。子どもたちの旅をサポートし、感動を共有しませんか?

開催期間 2018.8/8(水)~12(日)
コース 三条市・燕市・弥彦村の県央地域100km
問合せ (寺子屋つばさ100km徒歩の旅実行委員会)
E-mail: info@tera100.info
詳しくはHPをチェック!
<http://www.tera100.info>

寺子屋つばさ 100km 徒歩の旅

行程概要(予定)

- START いい湯らてい
- 1日目GOAL 三条市グリーンスポーツセンター
- 2日目GOAL 三条市大面体育館
- 3日目GOAL 燕市体育センター
- 4日目GOAL 国上勤労者体育センター
- GOAL 弥彦山登山
- GOAL 弥彦中学校

いろいろな体験をしたり、たくさんの仲間ができる旅。100kmの道のりを歩くことは自分自身へのチャレンジです。



寺子屋つばさ100km徒歩の旅実行委員会 会長 嘉瀬一洋さん
普段はファイナンシャルプランナーとして法人財務を担当。「生涯の思い出になると思います。ぜひスタッフとして参加しませんか?」とのこと。

今年で11回目を迎える「寺子屋つばさ100km徒歩の旅」、通称「寺子屋100」は、三条市、燕市、弥彦村在住の小学4年生〜6年生の子どものために4泊5日をかけて100kmの道のりを歩く体験学習型の青少年育成事業。8月の一番暑い時期、下田地区の「いい湯らてい」から三条市街地、燕市へと寝食をともにしながら集団で歩き、最後は弥彦山登山を終えてから弥彦中学校でゴールを迎えます。

「二歩いっぽ歩けばかならずゴールは来るので、それを体験するというのが大事なんです。今の子どもたちはすぐに無理と言いますが、できる自分を再発見するというのがこの事業の趣旨なんです」

5日間も家を離れるのは、子どもたちはもちろん親にとっても初めての経験。こっそり様子を見に行くことも禁止です。寝泊まりは体育館など公共施設での雑魚寝で、寝心地のよいベッドはもちろんテレビもゲームもありません。しかし最初は不安

子どもたちの成長を
感じられる5日間



「学生スタッフの数×2までの子どもの受け入れを毎年しています。60名集まれば120名ほどの子どもを受け入れられるので、学生スタッフを集めることが肝心なんです。この事業の「キモ」はそこですね」

毎年5月から始まる研修では、お互いの距離を縮めるためのレクリエーションから始まり、コミュニケーションや子どもへのケアの方法を学びます。そして実際に本番同様の道のりを歩き、歩調コントロール

学生スタッフの
大きな役割

この寺子屋100で重要な役割を果たすのが大学生、専門学生を中心とした学生スタッフ。お兄さん、お姉さんの存在として子どもたちに寄り添い励まし、100kmの道のりを安全に完歩できるようサポートを行うなくてはならない存在です。

「参加させる親も多いため、子どもたちの成長を実感できるので、毎年参加させる親も多いためです。」